

背景

- 本会合は、環境省の要請により国際原子力機関（IAEA）が実施したもの。今回の会合は、環境省の除去土壌の再生利用や今後の最終処分について意見交換を行うとともに、中間貯蔵施設および飯舘村長泥地区における環境再生事業実証エリアの視察を行うことを目的としている。技術的、社会的な観点からの国際的な評価・助言が期待される。
- なお、最終報告書は、第3回専門家会議終了後、IAEAが取りまとめる予定。

第1回概要

○日程・場所

日程：令和5年5月8日（月）～12日（金）

8日：環境省との会合

9日～10日：福島県での現地視察（中間貯蔵施設、飯舘村長泥地区の再生利用実証事業エリア、飯舘村役場職員・長泥地区住民との意見交換、飯舘村長・双葉町長・大熊町長への表敬等）

11日～12日：環境省との会合 環境大臣表敬

○主な議題

- ① 除去土壌の再生利用、最終処分や理解醸成等の取組の進捗状況
- ② 除去土壌等の減容・再生利用の技術開発戦略の進捗 など

第1回の主な結果

○現地視察



長泥実証事業施設内 ビニールハウスの花き栽培



水田の実証

○IAEAの主な発言

- これまでの環境省による継続的な取組が安全性を実証するための絶え間ない努力のもと実施されていることを目にする事ができた。
- 実証事業に関しては非常に重要な取組である。実証事業を通じ、関係者に対し、除去土壌の再生利用について重要な情報を提供できる意義がある。

除去土壌の再生利用等に関する国際原子力機関（IAEA）専門家会合メンバー

IAEA 職員（原子力安全局）

- Ms. アナ・クラーク：廃棄物・環境安全課長
- Ms. ジョアン・ブラウン：環境放出評価・管理ユニット長
- Mr. ジェラルド・ブルーノ：放射性廃棄物・使用済燃料管理ユニット長
- Ms. マチルダ・プレボスト：放射性廃棄物・使用済燃料管理ユニット調整官

国際専門家

- Mr. ジョン・リチャード：環境保護庁地域放射線専門官, 除染プロジェクトマネージャー, 米国
- Mr. レイ・ケンプ：放射性廃棄物管理に関する英国委員会 委員、
環境中の放射線の医学的側面に関する英国委員会 委員, 英国
- Ms. シェリー・モブス：エデン原子力・環境有限会社放射線防護・環境保護主任専門官, 英国
- Ms. シャンタル・モマート：Bel V 放射線防護・廃棄物・廃炉部門長, ベルギー
- 井上 正 氏：財)電力中央研究所 名誉アドバイザー